

一八八二年十一月十九日(日)

マノモハン氏とスレンドラ氏のおける聖ラーマクリシュナ

次の日曜、キリスト暦一八八二年十一月十九日のジャガッドダートリー・プージャの日、スレンドラはタクールをご招待していた。タクールがもうじきお着きになる頃なので、彼は家の外に出ていた。校長の姿を見て、「やあ、いらっしやい。で、あの御方は？」と言った、ちょうどそのとき、タクールの馬車が到着した。近くにマノモハンの家があつて、タクールは先ずそこでお降りになつてひと休みされてから、スレンドラの家に来られたのである。(訳註、ジャガッドダートリー——世界の母の意でドゥルガー女神がとる別の姿)

マノモハンの家の応接間では、タクールは次のように言われた。

「貧しい人々や身分の低い人(欲の少ない人や腰が低く謙遜な人)の信仰が、神様はたいそう好きだ。油かすの混じつたまぐさを牝牛が大好きなようにね！ ドリタラーシュトラは、自分の持つてゐる途方もない金だの、そのほかの財産だのを見せたが、彼の家には神様は行つて下さらなかつた。あの御方は、ヴイドウラの家に行つちやつた。あの御方は、ご自分の信者にはたいそう親切で思いやりがあつてね、牝牛が仔牛のあとを追いかけるように、毎年、毎年、あの御方は信者のあとを追つて付い

て来なさる」(訳註、ヴィドゥラー—ドリタラーシユトラの異母兄弟で、正義に基づいた人生を送った)
タクールは歌をおうたになった。

その愛ゆえに　すぐれたるヨーギーたちは

昔も今も　ヨーガの修行にはげむ

その心　目覚めたならば

神の磁石は　鉄の私を引き寄せる

チャイタニヤ様^{デーヴァ}はクリシュナの名を聞いただけで、歓喜の涙をこぼしたものだ。神様だけが^{ヴァストゥ}実在で、ほかは皆、実在ではない。人はその気になりさえすれば神様をつかむことができるが、何しろ女と金のはかない楽しみにのぼせ上がっているからね。蛇は頭の中に寶石を持っているというのに、蛙を食べるだけで死んでいく!

信仰こそ何より大切なものだ。神様のことを頭で考えたって、誰にも分らないよ。必要なのは信仰だけ、あの御方の無限の富と力を全部知り尽くすことなんか必要ないからね。コップ一杯の酒で酔ってしまふのに、酒屋にどれだけ酒樽があるか、わたしには知る必要ない。水差し一杯の水で喉の渴きが止まるのに、世界中にどれだけ水があるかなどということは、わたしにとっては調べる必要のないことだよ」

〔スレンドラの兄と裁判官——カースト差別と不可触民問題の解決——神智学^{デオウフワイ}〕

聖ラーマクリシュナは、今後はスレンドラの家においてになった。お着きになると、まっすぐ二階の応接間が上がって坐られた。スレンドラの二番目の兄で裁判官をしている人も来ていた。大ぜいの信者たちが部屋に集まっていた。タクルはスレンドラの兄にこうおっしゃる——

「あなたは裁判官でいらっしやるが、大変に結構なことです。ただ、すべてのことは神様のお力によって起る、ということを知っていて下さい。高い地位にも、あの御方が与えて下さるからなれる。人は自分が偉い人物だと思っている。屋根の水はライオンの口の形をした管から流れ落ちるので、ライオンが自分の口から水を吐いているように見える。だが、水はほんとうは何処から来るのかよく見なさい。大空に雲が湧いて、雨になって屋根に落ちてくる。それから管を通ってくる。最後に、ライオンの口形のはけ口から吐き出されるんですよ！」

スレンドラの兄「先生、ブラフマ協会では女性の解放とカースト制の廃止を主張しておりますが、これについてあなた様のお考えは？」

聖ラーマクリシュナ「はじめて神様を慕うようになった頃には、そういう気持ちになるものです。嵐が来ると、ホコリやら何やらが舞い上がって、どれがアムラの樹やら、どれがタマリンドの樹やら、どれがマンゴーの樹やら、皆目分からなくなる。嵐が静まると、今度はよく分かるようになる。初めの情熱の嵐が静まると、だんだん分かってくる。つまり、神様だけが最高絶対の善で永遠に変わらぬものであり、そのほかのものは皆、一時的なはかないものだ、ということがです。霊格の高い人のところに

出入りして厳しい修行をしなければ、これをはつきり理解することはできない！ 両面太鼓バカウツジの譜を口

で暗誦しても何の役にも立ちません。手で弾けるようになるのがたいそう難しいことなんだ。ただの講義や講演を聞くだけではどうにもならない。修行をして初めて、ほんとの理解ができてくるのです。

カースト差別？ たった一つの方法でカーストの差別など無くなってしまふ。それは信仰です。

神様の信者にとってはカーストはない。汚れた民といわれている階級でも、たちまち清浄になる。チャンダーラチャンダーラ（賤民・最下級のカースト）でも信仰を持てば、もう賤民チャンダーラなんかじゃない！ チャイタニヤデルグア様は、賤民チャンダーラもみないつしよに胸にお抱きになった。

ブラフマンブラフマン智を学ぶ人たちがハリの名を称えるのはとてもいいことだ。一生懸命に呼べば、あの御方のお恵みによつて神様をつかむことができるよ。

どの道を通つても神様のところへ行ける。一つの神様がいろんな名前と呼ばれているんだ。一つの水汲場の水をヒンドゥー教徒はジャルという名で飲み、もう一つの水汲場の水をキリスト教徒はウォーターといつて飲み、又一つの水汲場の水をイスラム教徒はパーニーといつて飲むようなものだ」

スレンドラの兄「先生、神デオソフイー智学についてどうお考えですか？」

聖ラーマクリシュナ「聞くところによると、あそこでは超自然的な力が付くそうだね。デーブ村長の家で見ることがあるが、鬼神がいろんな物をたくさん運んで来てくれたそうだよ。超自然力など持つて、いったいどうするつもりだい？ それによつて神様をつかむことができるのかね？ 神様がつかめないなら、そういうものは一切間違いだよ！」